

オルガノン要約 § 137～145

§ 137 一次作用のみが最も知るべき価値のあるもので、それは適量の投与で得られる。過剰投与は一次・二次作用を混乱させるだけでなく、危険ですらある。

§ 138 正しく条件づけられたプルービングで起きた症状は、レメディによるもの以外ではない。(その人のものではなく)

§ 139 プルービングで現れた症状は細かく正確にメモを取り、プルーバーの目の前で確認すること。

(注) プルービング情報を世に出す人はその内容に責任を持つ必要がある。

§ 140 プルーバーが語ったことだけを記述し、推測や憶測は入れてはいけない。医師からの質問への答えもできるだけ少なくすること。

§ 141 最も優れたプルーバーとはホメオパスが自分に対して行ったものである。

(注) 最も信頼できるプルーバーは自分だから。そして「汝自身(知恵の根本にあるもの)を知る」ことができる。自分へのプルービングはレメディをより広く深く探求する動機となる。そして、プルービングを行うことでプルーバーの健康はより安定し向上する。(ハーネマンの経験上のもの)

§ 142 病気の時は元の症状かレメディの症状かを見分けるのは難しい。

§ 143 真のマテリアメディカは正しいプルービングとそれを慎重、忠実に記録したものだけである。

§ 144 マテリアメディカの中からは憶測を完全に排除すべきである。

§ 145 もはや最適なレメディが見つからないケースはわずかしかない。レメディの作用は優しく確実に持続的だが、混合薬を使うアロパシーでは治癒できないだけでなく危険ですらある。

マテリアメディカの充実に向けて、今後も貢献していけば、非常に確かな治療が約束される。